

<同志社人が誇りに思える情報>

# 同志社ファン・レポート

Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report Doshisha fan report

発信：同志社ファンを増やす会

第307号・2021年05月15日発信

## 『同志社の自由主義』(4)「愛への自由」

野本真也先生

(学校法人同志社元理事長、日本キリスト教団賀茂教会牧師)

### ■はじめに（編集人より）

4月1日で同志社ファンを増やす会は8回目の新年度を迎え、原点を見直そうと野本真也先生に<同志社人が誇りにすべきこと>をお伺いしますと「それは同志社の自由教育でしょう」と「奨励・同志社の自由主義」のご提供と利用の承諾をいただきました。

内容は聖書やキリスト教のことが出てきますが、これを避けていたのでは、いつまでも同志社や新島襄の核心に迫れない、と考えました。

そこで全文を5回に分け、聖句やキリスト教は、牧師の有賀誠一先生（同志社大学卒、理学博士）に解説を「同志社ファン ZOOM 講座」でお願いしております。また、用語については、文末に参考情報を添えました。このようにレポートは講座とセットになっています。

\* \* \*

### ④ 愛への自由

エーリヒ・フロムという思想家は、『自由からの逃走』とか『愛するということ』などの著作で有名ですが、自由には「何々からの自由」と「何々への自由」があると言っています。たしかに、人間を束縛するさまざまな条件から自由になるという問題と、どういう自由を選択するかという、自由を求めて、その自由を使っていく方向性の問題とがあるわけですが、パウロは「肉の機会へ向けてではなく」、「愛によって互いに仕えなさい」と、「愛への自由」が大切だということです。そうでないと、自由をお互いに主張しあっていくと、15節のように、「互いにかみ合い、共食いして」いき、「互いに滅ぼされ」ることになるということです。

しかもパウロは、この愛への自由の根拠付けとして、その前の14節で「律法全体は、『隣人を自分のように愛しなさい』という1句によって全うされるからです」と言っています。

これはイエス・キリストの教えと同じですが、パウロは律法をいわば否定的媒介として、律法の真の意図である神の意志、御心を明らかにしようとしているのです。

パウロはこのように、愛への自由を「互いに仕えなさい」と言っているのですが、これは「互いに奴隷となりなさい」とも訳せます。つまり、パウロは愛への自由は究極のところ、愛の奴隷になることなのだということです。ずいぶん矛盾した表現ですが、それは愛のなかにしか本当の自由はないのだということを言おうとしているからでしょう。

宗教改革者マルチン・ルターも「キリスト者はすべての者の上に立つ自由な主人であって、なに人にも従属しない。キリスト者はすべての者に奉仕する奴隷であって、なに人にも従属する」という有名な二律背反のテーゼを掲げましたが、これもルターがこのようにしか表現し得ない自由の真相を見据え、経験したからなのです。

このように、人間の自由は、自分のためにではなく、他者のために用いるときに本領を発揮するのです。なぜなら、神ご自身が、自らの完全な自由をキリストの十字架と復活の出来事において私たちを愛するためにお用いになった、その愛によって、私たちに本当の自由、真誠の自由が与えられているからです。

ですから、真誠の自由というものは、超越と内在を自由と愛において貫くキリストにおいて現れた神との関わりなしには得られないのであり、この神への信仰に基づいて、真誠の自由と愛に根ざした教育、それが新島襄の目指した自由教育であり、同志社の建学の精神の自由主義なのです。

.....

## 補足情報

担当：多田 直彦

・ **エーリヒ・フロム** (Erich Fromm 1900年3月23日-1980年3月18日 79歳)

ドイツの社会心理学、精神分析、哲学の研究者。ユダヤ系。マルクス主義とジークムント・フロイトの精神分析を社会的性格論で結び付けた。新フロイト派、フロイト左派とされる。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

・ 『自由からの逃走』

<内容紹介に代えて Amazon の読後感を 3 例、記載しました>

1. 本当の自由とは一体何か？1941年に発表された本だが、現代社会でも十分当てはまる内容である。消極的な自由は人を孤独にする。孤独や恐怖を克服するひとつには、人々が積極的に自分の生活や社会の生活に参加することであるとエーリッヒ・フロムは説いている。
2. 「人間の権力に対する服従」を心理学的観点から詳細に検証したフロムの論理。
3. 何かに属せずにはいられない不思議。自由がもたらす孤独から耐え切れず、ナチスに自発的に服従していく大衆と、権威主義的性格について分析した本。

・ 『愛すること』

原タイトル: The art of loving 著者はエーリッヒ・フロム

愛とは、孤独な人間が孤独を癒そうとする営みであり、愛こそが現実の社会生活の中で、より幸福に生きるための最高の技術である-。愛の理論と実践の習得をすすめた世界的ベストセラー。  
出典；書誌情報より

・ マルティン・ルター (Martin Luther、1483年11月10日 - 1546年2月18日)

ドイツの神学者、教授、作家、聖職者。聖アウグスチノ修道会に属する。

1517年に『95ヶ条の論題』をヴィッテンベルクの教会に掲出したことを発端に、ローマ・カトリック教会から分離しプロテスタントが誕生した宗教改革の中心人物である。

著書に「キリスト者の自由」(岩波文庫)の他、何冊かある。

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

<参考>

・ 奨励・「愛によって互いに仕えなさい。」

三木メイ〔みき・めい〕 同志社大学キリスト教文化センター助教

[http://www.christian-center.jp/chapelhour/2014/wed\\_tanabe/1001.html](http://www.christian-center.jp/chapelhour/2014/wed_tanabe/1001.html)